

いわさきちひろ 児童画家、絵本作家。生涯子どもを描き続け、内外から高い評価を受け、ファンも多数。

いわさきちひろ

第一次大戦終1918 = 女学校の教師をしていた母の単身赴任先だった福井県武生で、陸軍築城本部の建築技師岩崎正勝と文江の長女に生まれる。本名知弘、別名千尋。

♠ 勝江条約・1919 = 1歳：東京渋谷に転居。

原敬首相暗殺1921 = 3歳：

治安維持法・1925 = 7歳：東京渋谷の長谷戸小学校に入学。

金融恐慌・1927 = **9歳**：

満州事変・1931 = 13歳：東京府立第六高等女学校(都立三田高校)に入学し、

国際連盟脱退1933 = 15歳：**洋画家岡田三郎助に師事、本格的な絵の勉強をはじめ。**

二二六事件・1936 = **18歳**：卒業して、同校補習科入学。**朱葉会女子洋画展に出品、初入選。**

日中戦争始・1937 = 19歳：小田周洋に師事し、藤原行成流の書を習い始める。

第二次大戦始1939 = 21歳：婿養子を迎え結婚。夫の勤務地の満州大連に渡って新居を構えるが、大政翼賛会・1940 = 22歳：夫の自殺により帰国。書家をめざし、再び小田周洋のもとで書を学ぶ。

日米開戦・1941 = 23歳：

近代の超克・1942 = 24歳：中谷泰に師事して、再び油絵を描き始め、

年金+総武装1944 = 26歳：満州勃利女子開拓団に同行して、再び渡満するが、戦況悪化のため帰国。

敗戦・1945 = **27歳**：空襲で家が焼かれたため、母に連れられ、長野県北安曇郡松川村に疎開し、開拓を始める。

新憲法公布・1946 = 28歳：**長野で日本共産党に入党、上京して『人民新聞』の美術記者となり、党宣伝部の芸術学校で丸木俊に師事。**

新憲法施行・1947 = 29歳：**前衛美術会創立に参加し、日本美術会・日本童画会の会員にもなる。単行本『わるいキツネそのなはライネツケ』で初めて挿絵を描き、日本民主主義文化連盟の依頼で、紙芝居『お母さんの話』を描き、**

三大事件・1949 = 31歳：童心社稲庭圭子と知り合い、***画家として自活することを決意。『お母さんの話』が出版され、**

朝鮮戦争始・1950 = 32歳：日本共産党の活動を通して前年知合った松本善明と再婚。**文部大臣賞受賞。**

独立回復・1951 = 33歳：長男猛を出産、長野県松川村の両親に預ける。

メデ-事件・1952 = 34歳：練馬区下石神井に新居を建て、家族3人で暮らし始める。以後、ここで制作活動。

TV放送始・1953 = 35歳：父が死去。

自衛隊発足・1954 = **36歳**：

国連加盟・1956 = 38歳：**『みんなでしようよ』を描き、小学館児童文化賞受賞。初めての絵本『ひとりのできるよ』を出版。**

イラストレータ・1958 = 39歳：**月刊絵雑誌『こどものせかい』に描き始める。紙芝居『お月さまいくつ』を描き、**

美智子妃・1959 = 40歳：**厚生大臣賞受賞。**

安保闘争・1960 = 42歳：**『あいうえおのほん』を描き、**

タイタイ病始・1961 = 43歳：**サンケイ児童出版文化賞を受賞。**

TV宇宙中継始1963 = **45歳**：***雑誌『こどものしあわせ』の表紙を描き始め、没するまで続ける。世界婦人会議参加のため、訪ソ。**

東京リボルヴ・1964 = 46歳：滝平二郎らと『童画くるーぶ車』を結成。

大学紛争始・1965 = 47歳：『リゅうのめのなみだ』『おはなしアンデルセン』を刊行。

いざなぎ景気1966 = 48歳：母とヨーロッパを旅行。帰国後、アンデルセンの『絵のない絵本』を描く。長野県黒姫にアトリエを兼ねた山荘を建て、以後毎年ここで絵本作成。『おやゆびひめ』『つるのおんがえし』を刊行。

美濃部都知事1967 = 49歳：夫が衆議院議員となる。若い人の絵本『わたしがちいさかったときに』を描く。『しらゆきひめ』『りこうなおきさき』『にんぎょひめ』『うらしまたろう』を刊行。

霞ヶ関ビル・1968 = 50歳：『はくちょうのみずうみ』『あかいふうせん』『あかいくつ』『愛かぎりなく デカプリストの妻抄』を刊行。**初めて文も手がけ、絵を主体に展開する『あめのひのおるすばん』、自叙伝風絵本『わたしのえほん』を描く。**

全共闘・1969 = 51歳：『ふたりのぶとうかい』『青い鳥』『鯉のいる村』を刊行。『おにたのぼうし』『花の童話集』を描く。

大阪万博・1970 = 52歳：前年脳血栓で倒れた母をひきとる。『あかちゃんのくるひ』『おふるでちゃぶちゃぶ』『もしもしおでんわ』『万葉のうた』『にじのみずうみ』を刊行。**『パステルで絵本』となりきたこ』描き、多数のパステル画も制作。『ベトナムの子どもを支援する会』主催の反戦野外展に『世界中の子どもみんなに平和としあわせを』。**

ドクショク・1971 = 53歳：『となりきたこ』『あかちゃんのうた』『たけくらべ』『ゆきごんのおくりもの』を刊行。この頃から十二指腸潰瘍をわずらう。**『ことりのくるひ』を描き、**

日中国交回復1972 = **54歳**：『ひさの星』を刊行。『ゆきのひのたんじょうび』『母さんはおるす』『あかまんまとうげ』などを描。入院。

石油ショック1973 = 55歳：静養のためハワイ旅行後、原発性肝癌のため、入退院。『ぼちのきとうみ』を刊行。月刊雑誌『こどものしあわせ』の表紙絵をまとめた『こどものしあわせ画集』を出版。***ポローニャ国際児童画展グラフィック賞第1席になる。『戦火のなかの子どもたち』を完成出版し、**

角栄金脈辞任1974 = 56歳：未完の『赤い蠟燭と人魚』を最後に**没した。没後に、ライブチヒ国際書籍展銅賞受賞。**

いわさきちひろ絵本美術館が東京下石神井にある。